

平成 29 年 5 月 25 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25516005

研究課題名(和文) 東日本大震災における養護教諭の実践分析と自然災害対応養護教諭研修プログラムの構築

研究課題名(英文) A Practical Analysis of Yogo teachers during the Great East Japan Earthquake and Building a Training Program for Yogo Teachers to learn to Respond to Natural Disasters

研究代表者

工藤 宣子 (KUDO, Noriko)

千葉大学・教育学部・准教授

研究者番号：60305266

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：大規模自然災害発生時、児童生徒のこころと身体のカアを行うためには、その主たる担当者である養護教諭自身の心身の健康を保つことが必要である。しかし、本研究により、災害非常時、養護教諭に特化した自身のメンタルヘルスを保つための研修講座は行われていないことが明らかになった。

そこで、本研究では、災害非常時、養護教諭自身のメンタルヘルスを保つための研修プログラムを構築することを目的として研究を行った。研究成果は報告書としてまとめ、全国の教育委員会および教員研修施設138箇所に送付した。

研究成果の概要(英文)： Yogo teachers are the main party responsible for giving physical and psychological care to students when a large-scale natural disaster strikes, so it is essential that their mental and physical health be maintained. However, this study revealed that there are no training courses being held specifically for Yogo teachers to maintain their mental health during a disaster emergency.

Therefore, the purpose of this study was to conduct research with the purpose of building a training program intended to maintain Yogo teachers' mental health during a disaster emergency. The research results were compiled in a report, and it was sent to 138 Boards of Education and teacher training facilities etc. across Japan.

研究分野：養護教育学

キーワード：東日本大震災 養護教諭 研修プログラム 心的疲弊

1. 研究開始当初の背景

1995年の阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件以降、災害看護の分野では、看護界全体としての災害看護の活動方法を体系化し、共有できる知識体系を確立する必要があるとして、日本災害看護学会が設立され、災害看護の活動方法を体系化し、共有できる知識体系を確立し、研究・情報の蓄積を目指す活動が行われている。

一方、養護教諭の分野では、阪神・淡路大震災以降、自然災害発生時の養護教諭の活動についての報告が出されているものの、その内容は事例報告や被災体験及び養護活動の体験談等に留まり、研究としての報告は少なく、災害発生時の養護活動についての研究の集積が求められている。

また、東日本大震災以降、被災地の各教育委員会および関係団体は教職員向けの研修会を多数開催しているが、その内容は教職員全般を対象とした一般的なものが多く、養護教諭の専門性（災害発生時の初動としての救急処置活動、児童生徒の中長期的な心のケアの中核をなす養護教諭の職務等）に特化した研修会は少ない。

2. 研究の目的

本研究は、大規模自然災害発生時の被災地の養護教諭がその職務を全うするため、自身の心的疲弊を予防するための研修プログラムの構築を目的としている。

第一に、大規模自然災害発生に備えた養護教諭対象の研修の開催状況を調査する。第二に、大規模自然災害発生時に被災者を支援する職種（看護師・警察職員等）を対象とした支援者（救援者）支援および災害関連ストレスに関する研究の集積および養護教諭を対象とした支援者（救援者）支援・災害関連ストレスに関する研究の集積の実態を調査する。第三に、東日本大震災発災当時、被災地の学校に勤務していた養護教諭、発災後、被災地外から被災地へ異動となった養護教諭及び、被災地の養護教諭を支援するために被災地外から派遣された養護教諭の体験等に関する語りを分析し、自然災害発生時、養護教諭自身の心的疲弊を予防する研修プログラムの内容を検討する。

上記の研究を元に、大規模自然災害発生時、被災地の子供達のこころと身体の健康をサポートする立場の養護教諭の災害関連ストレスを予防する研修プログラムの内容を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

(1)【大規模自然災害時の養護教諭の心的疲弊に対応した研修講座開催の実態】

平成25年度、各都道府県（47機関）及び政令指定都市（20機関）の教育センター67機関を対象に、郵送による質問紙調査（選択式と自由記述の併用）を実施した。内容は、養護教諭及び教職員（養護教諭除く）自身

のメンタルヘルスに関する研修講座（講義）の有無、実施したメンタルヘルスに関する研修講座（講義）名とその区分、養護教諭及び教職員（養護教諭除く）自身の自然災害等によるストレス及び心的疲弊感に関する内容の有無、養護教諭対象の研修に対する意見等である。質問紙調査に加え、研修講座を開催していた団体等から収集した実施要項及び講義関係資料、およびWeb上で公開されているホームページの内容を分析した。

(2)【大規模自然災害発災時の支援者（救援者）支援・災害関連ストレスに関する研究の動向】

大規模自然災害発災時の支援者（救援者）支援・災害関連ストレスに関する研究の集積があると予想される学会および養護教諭関連学会の学会誌に掲載されている論文（阪神淡路大震災以降に発行されたもの）について、支援者支援または心的疲弊に関連する論文を抽出し、整理した。また、岩手県・宮城県・福島県の養護教諭部会等が発刊した東日本大震災に関わる報告書の中から、養護教諭の災害関連ストレスに関連する報告を抽出し、整理した。

(3)【東日本大震災における養護教諭の実践分析と心的疲弊の状況】

東日本大震災発災当時、岩手県の学校に勤務していた養護教諭、発災後、岩手県内の被災地外から被災地へ異動となった養護教諭及び、被災地の養護教諭を支援するために他県の被災地外から被災地に派遣された養護教諭のうち、研究協力に同意した養護教諭それぞれ2名ずつを対象に半構造化面接を行った。インタビューは匿名性を担保した文字データとしておこし、3名の研究者の同意に基づき質的に分析した。インタビューにあたっては「千葉大学教育学部生命倫理審査委員会」の承認を受け、指示された倫理的配慮を遵守した。

(4)【大規模自然災害発災時の養護教諭の心的疲弊を防ぐ研修プログラムの検討】

上記の(1)～(4)研究を元に、大規模自然災害発災時の養護教諭の心的疲弊を予防する研修プログラムの内容を検討し、研究成果報告集として発刊した。

4. 研究成果

(1)【大規模自然災害時の養護教諭の心的疲弊に対応した研修講座開催の実態】

質問紙を郵送した67機関のうち、回答があった研究機関は35機関で、回収率は52.2%であった。そのうち、養護教諭のメンタルヘルスに特化した研修講座を開講している機関はなく、「研修講座の中に講義内容として組み込まれている」と回答があった機関は35機関中13機関（37.1%）、25講座であった。

一方、教職員（養護教諭を除く）自身のメ

ンタルヘルスに関する講座を「開講している」教育センターは2機関(5.7%)、「研修講座の中に講義内容として組み込まれている」教育センターは24機関(68.6%)、「どちらもある」教育センターは4機関(11.4%)であった。

教職員(養護教諭を除く)自身のメンタルヘルスに関する研修は9割近くの教育センターで実施されていたのに比べ、養護教諭自身のメンタルヘルスに関する研修を実施していた教育センターは4割弱であった。加えて、養護教諭自身のストレスや心的疲弊に関する研修講座は開催されておらず、それらの内容を含む講義があったのもわずか4機関のみであった。

新潟県中越沖地震後の教員の外傷性ストレス調査によると、養護教諭のIES-R得点の平均値は担任教師と比較し有意に高く、養護教諭自身の心のケアが非常に重要であり、ストレス軽減のために何らかの手立てを打つ必要性が示唆されているにも関わらず、対応が遅れている現状が明らかになった。

(2)【大規模自然災害発災時の支援者(救済者)支援・災害関連ストレスに関する研究の動向】

阪神淡路大震災以降、被災者のみならず災害支援者自身のメンタルヘルスに大きな関心が向けられ、「日本災害看護学会」「日本トラウマティック・ストレス学会」などの関連学会では、支援者(救済者)支援・災害関連ストレスに関する論文等が多数報告されているが、養護教諭関連学会等においては、災害関連ストレスに関する概念等についてさえ、その認知度が低いことが明らかになった。

(3)【東日本大震災における養護教諭の実践分析と心的疲弊の状況】

発災当時、被災地に勤務していた養護教諭の実践分析と心的疲弊の状況

発災直後、学校が被災し、近隣の学校に学年を2つに分けて分散学習することになった学校に勤務する経験年数が浅い養護助教諭および、受け入れ側の学校に勤務していた熟達した養護教諭2名に半構造化面接を行った。分散学習を行っていた時期は震災当時の不安や不便さはあるものの、大きな困難を感じてはなかった。しかし、分散学習が終了し、震災当時の環境が大きく変化する時期に様々な体調の変化・心身の不調に苦しんでいた。自身の体調不良が震災の影響から来ていることに気がつくのは、受診した医者やカウンセラーからの助言によってであった。両者の語りの分析から、発災前に自分自身のメンタルヘルスに関する知識(二次的外傷性ストレス等)に関する研修が必要であることが示唆された。

発災後、岩手県内の被災地外から被災地へ異動となった養護教諭の実践分析と心的疲弊

弊の状況

震災を経験していない養護教諭が、悲惨な経験をしていることが予想される被災地で勤務するという状況は、「これまでの行ってきた養護実践が通用するのか」、「震災を経験していない自身が地域の人々に受け入れてもらえるのか」、「喪失体験を乗り越えられていない保護者との連携」、「震災について多くを語らない子供達のつらさに寄り添えていないのではないかという思い」等、通常の異動とは異なる不安が生じていることが明らかになった。また、養護活動へ直結するような学習と養護教諭自身の精神衛生保持の両面からの学習プログラムが必要であること、養護教諭としての力量形成を基盤とした人間関係構築能力も求められることが示唆された。

被災地を支援経験した養護教諭の実践分析と心的疲弊の状況

被災地の養護教諭を支援した養護教諭は、派遣される時期により活動の内容が異なっており、派遣されることについての事前説明を受けてはいたが、日々変化する被災地の状況下に支援に行くという心の準備・十分な知識のないままの派遣により、本人の予想を上回る負担感を感じていた。派遣に伴い生じる支援者自身のストレス反応やセルフケアについての事前学習、児童生徒の災害発生後に生ずる心身の変化や対応についての基本的な知識に関する研修の他、派遣後即座に行動を起こすため、判断や具体的支援を選択するための情報収集の手立てや情報交換のできる養護教諭同士の仲間づくり、専門家や関係機関とのネットワークの構築のための整備等が必要であることが示唆された。

(4)【大規模自然災害発災時の養護教諭の心的疲弊を防ぐ研修プログラムの検討】

研究成果を基に大規模自然災害発災時の養護教諭の心的疲弊を防ぐ研修プログラムの内容を検討した結果、大規模自然災害発生時における養護教諭の「心的疲弊」を予防するために必要な内容を「子どものニーズを的確に判断するための知識[平常時の健康観察と健康相談(活動)に関する知識]、平常時、心理的な援助をするために共通する一般的な技能、災害非常時の子どもが示す反応と適切な対応、被災者の心の心理的回復プロセス、支援者(救済者)の心的疲弊に関する基礎知識」とした。また、参考として、被災地の養護教諭の発災直後の実践と、実践の根底にある思いをつづった実践の記録を加え、上記の内容を包含した資料集を作成した。(表1)

なお、作成した報告集は全国の「各都道府県・指定都市教育委員会」「各都道府県・指定都市教育センター」等138箇所その他、関係各位に送付済みであり、東日本大震災に関する養護教諭対象の講演会等にて希望者に配

布予定である。

表 1 大規模自然災害発生時、養護教諭の「心的疲弊」を予防するためのプログラムの概要

1	平常時の健康観察と健康相談（活動）
	問題発見につながるサイン 子どもの表情・態度から 心理的・情緒的問題を把握する 保健室来室時以外の相談ニーズの把握
2	平常時、養護教諭の実践活動を適切に実践するための基本時技能
	コミュニケーション技能 ケースマネジメント技能 システムオーガニゼーション技能
3	災害非常時の子どもが示す反応と適切な対応
	子どものための心理的応急処置 (PFA for children) (国際NGO セーブ・ザ・チルドレン 版)
4	被災者の心の心理的回復プロセス
	英雄期（災害直後） ハネムーン期（1週間～6ヶ月間） 幻滅期（2ヶ月間～1、2年間） 再建期（数年後） 養護教諭の心の回復のために
5	支援者（救済者）の心的疲弊に関する基礎知識
	惨事ストレス 代理受傷 共感疲労 災害非常時に心的疲弊をおこさないためのセルフケアポイント 災害非常時に心強かった養護教諭同士の横のつながり
6	東日本大震災直後の被災地の養護教諭の実践記録

<引用文献>

日本災害看護学会設立発起人、日本災害看護学会設立の趣意、1998、
<http://www.jsdn.gr.jp/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%81%BD%E5%AE%B3%E7%9C%8B%E8%AD%B7%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%A8%AD%E7%AB%8B%E3%81%AE%E8%B6%A3%E6%84%8F>

新潟県養護教員研究協議会、緊急報告
新潟県中越大震災に学ぶ～養護教諭としての取り組みを振り返って～、2005

小林 朋子、新潟県中越地震5年後の小中学校教師の外傷性ストレス、日本トラウマティックストレス学会抄録集、2010、96

森田 光子、子どものこころに寄り添う養護教諭の相談的対応（初版）、学事出版、1993、27 - 33

楠見 孝、実践知 エキスパートの知性

有斐閣、2010、12 - 14

下山 晴彦、心理的な援助職のスキルアップに何が必要か？、臨床心理学、90巻、2015、691 - 694

Save the children、被災された皆さまや、被災地で支援活動をする皆さまへ～緊急下の子どもの心のケア「子どものための心理的応急処置」ご紹介～、
<http://www.savechildren.or.jp/lp/ku mamotopfa/>

World Health Organization、War Trauma Foundation and World Vision International、Psychological first aid : Guide for field workers/ WHO: Geneva、2011、

* 訳：(独)国立精神・神経医療研究センター、ケア・宮城、公益財団法人プラン・ジャパン、心理的応急処置(サイコロジカル・ファーストエイド：PFA)フィールド・ガイド、2012

日経 DUAL、災害時、子どもがうける想像以上の精神的ダメージ、
<http://dual.nikkei.co.jp/article.aspx?id=4773&page=3>

デビット・モロ、ハンドブック 災害と心のケア、(株)アスク・ヒューマン・ケア、2011、12 - 14

宮城県学校保健会養護教諭部会実態調査報告書編集委員会、東日本大震災直後の保健室、2013、57 - 80

宮地 尚子、震災トラウマと復興ストレス、岩波ブックレット、2011、26 - 27

西村 もゆ子、働く人びとのこころとケア、遠見書房、2014、141

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

工藤 宣子、小林 央美、堀籠 ちづ子、岡田 加奈子、入駒 一美、高橋 雅恵、大規模自然災害に関わる養護教諭関連研究の動向、- 支援者支援・二次受傷・教育プログラムに着目して -、千葉大学教育学部研究紀要、64巻、2016、235 - 240、
http://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/100169/AA11868267_64_p235_KUD0.pdf

〔学会発表〕(計5件)

高橋 雅恵、工藤 宣子、小林 央美、入駒 一美、堀籠 ちづ子、岡田 加奈

子、養護教諭自身のメンタルヘルスに関する教育センター研修の実態 - 自然災害対応におけるストレス及び心的疲弊に着目して -、日本養護教諭教育学会第22回学術集会、2014.11.12、千葉大学(千葉県千葉市)

工藤 宣子、堀籠 ちづ子、小林 央美、東日本大震災における養護教諭の活動の実際と困難感(第1報) - 津波被害を経験した養護教諭へのインタビュー分析から -、日本学校健康相談学会第11回学術集会、2015.3.21、聖徳大学(千葉県松戸市)

小林 央美、工藤 宣子、堀籠 ちづ子、東日本大震災における養護教諭の活動の実際と困難感(第2報) - 内陸から津波被害地に転勤した養護教諭へのインタビュー分析から -、日本学校健康相談学会第11回学術集会、2015.3.21、聖徳大学(千葉県松戸市)

堀籠 ちづ子、小林 央美、工藤 宣子、東日本大震災における養護教諭の活動の実際と困難感(第3報) - 津波被害地を支援経験した養護教諭へのインタビュー分析から -、日本学校健康相談学会第11回学術集会、2015.3.21、聖徳大学(千葉県松戸市)

工藤 宣子、小林 央美、堀籠 ちづ子、入駒 一美、大規模自然災害発生時の養護教諭のメンタルヘルスに関する文献的考察 - 養護教諭に求められる職務に起因する心的疲弊の要因 -、日本学校健康相談学会第12回学術集会、2016.3.20、聖徳大学(千葉県松戸市)

〔図書〕(計1件)

工藤 宣子 他、平成25年度～平成28年度 科学研究費補助金(基盤(C))研究成果報告集 東日本大震災における養護教諭の実践分析と自然災害対応養護教諭研修プログラムの構築、2017、104

6. 研究組織

(1) 研究代表者

工藤 宣子 (KUDO, Noriko)
千葉大学教育学部・准教授
研究者番号：60305266

(2) 連携研究者

小林 央美 (KOBAYASHI, Hiromi)
弘前大学教育学部・教授
研究者番号：00419219

岡田 加奈子 (OKADA, Kanako)
千葉大学教育学部・教授
研究者番号：10224007

(3) 研究協力者

堀籠 ちづ子 (HORIKAGO, Chizuko)
前岩手県立大学看護学部・講師

高橋 雅恵 (TAKAHASHI, Masae)
岩手県教育委員会スポーツ健康課・指導主事

入駒 一美 (IRIKOMA, Kazumi)
岩手県立花巻清風支援学校・副校長